

Stoller博士とGrabe博士のリーディング・ガイドに 基づいたリーディング指導の提案

— 検定教科書の英文を用いて —

Reconceptualizing Lesson Plans for a Japanese Authorized Textbook
Based on a Reading Guide Developed by Drs. Stoller and Grabe

種 村 俊 介

Shunsuke TANEMURA

1. はじめに

本稿の第一の目的は、Northern Arizona University（以降NAUと略記）のEnglish Department名誉教授のFredreka L. Stoller氏とWilliam Grabe氏のリーディング・ガイド（以降、RGと略記）に基づいたリーディング授業を紹介することである。第二の目的は、その授業を参考に、日本の検定教科書の英文のRGを作成し、リーディング指導を提案することだ。

第2章では、両氏の授業を受けることになった経緯と授業を生徒役になって受けた筆者の感想を記す。第3章では主にGrabe and Stoller (2020) から両氏の授業を理解する上で重要となる事項を紹介する。第4章で両氏の授業とRGを、第5章では両氏の授業を参考にしたRGを詳述する。最終章の第6章でまとめを示す。

2. 授業を受けた経緯と授業について

筆者は、2023年度に半年間の特別研究期間を取得し、アメリカのアリゾナ州フラッグスタッフにあるNAUのEnglish Departmentに9月中旬から3月末まで客員研究員として滞在

する機会を得た。その間、Applied LinguisticsとTESL分野の大学院の幾つかの授業を聴講させていただいた。その内の一つのESL Methods and Materials: Reading and Writingの授業のある回に、L2リーディング分野の著名な研究者であり、様々な国々での豊富な指導経験を有する教育者でもあるStoller氏とGrabe氏がゲストとして招かれ、リーディングのモデル授業を行った。受講生はESL/EFL教員や研究者を目指す修士・博士課程に在籍する院生だが、筆者も含め受講生は、生徒になったつもりでこの授業を受講した。

授業では、英文がプリントされた用紙一枚とその英文に関する15のタスクが書かれたハンドアウト（RG）を教材として使用した。15のタスクは実に多種多様で、タスクに答えることが楽しく感じられ、意欲的に取り組めた。タスクに答える過程で、クラスメイトとの学び合い・教え合いの時間を多く持つことができた。さらに、タスク毎に様々な目的が与えられるため、異なる読み方で繰り返し英文を読んだ。英文の内容も興味深く知的好奇心が喚起されるものであった。両氏の授業は、筆者もこのような授業を行えるようにな

りたいと強く感じられるほど、魅力に溢れ、工夫に富むものであった。

次章では、本稿の読者が、両氏の授業の目的や意図をより理解できるように、Grabe and Stoller (2020) で提案されているリーディング・カリキュラムの原則の中から、両氏の授業に関連する事項を紹介する。

本稿では、Grand and Stoller (2020, p.183) の記述を踏まえ、RGを、学習者に文章のメイン・アイデアや重要な情報を理解させ、熟達した読み手が使用するリーディング・ストラテジー（以降RSと略記）を使用させることを主な目的とするタスクが記されたハンドアウト、と定義する。また、RGの詳細は、第3章の第5節で記される。

3. リーディング・カリキュラムの原則

Grabe and Stoller (2020) の第5章「L2リーディング・カリキュラムの原則」では、L1およびL2リーディング分野の理論や先行研究の結果に基づいて、「リーディング・カリキュラムの軸となる原則」が4つ、「リーディング・スキル開発の原則」が4つ、「教育・授業設計の原則」が6つの合計14の原則が示されている（詳細はpp.137-158を参照）。これらの原則はリーディングに特化したL2教育に限ったものではない。日本の英語教育のように検定教科書を用いた4技能の総合的な育成を目指す教育においても適用可能であり、レベルを問わず、リーディングがかかわるあらゆる教育現場にあてはまる原則として提案されている（p.137-138）。

以下では、14の原則の中から両氏の授業に特に関連する原則1, 3, 6, 8, 9, 10について紹介する。また、Grabe and Stoller (2020) の第6章では、14の原則を実際にどのように指導に取り入れていくかが記されており、それらも合わせて解説する。加えてGrabe and

Yamashita (2022) などの関連する文献の記述や両氏とのパーソナル・コミュニケーションによって得られた内容も紹介する。

なお、以降で英語の文献などを直接・間接引用する際、筆者が原文を翻訳して引用する。また、直接引用を示す際に一般的に用いる「筆者翻訳」という記述は省略する。

3.1 「リーディング・カリキュラムの軸となる原則」1：多量に、頻繁に、目的を持って読ませる

Grabe and Stoller (2020, p.138) は、学習者を熟達した読み手に育てるために、豊富な読書量と読書機会を多く与えることを提案する。また、明確な目的を持たせた上で読書させる必要性を説く。このうち、目的を持って読むこと（又は、繰り返し読むこと）は、本稿で紹介する両氏の授業で最も重視されていることの一つである。

Grabe and Stoller (2020, pp.138-139) は、L2授業では、学習者は単にテキストを読むように指示され、読後にテキストの内容についての内容理解問題に答えることが求められることが多いと指摘し、そのような指導では、学習者は目的を持って読む経験を得られないと批判する。L2学習者は、授業で、教師から明確な目的を与えられて読むことや再読を指示されることはほとんどないが、熟達した読み手は、目的を持って読み、目的に応じて多様な読み方をし、様々なRSを用いると説明する。以上のことを踏まえて、熟達した読み手が、重要な情報を探したり、理解したり、学習するために行う読みや再読を、授業内外で学習者に繰り返し経験させることを提案している。

3.2 「リーディング・カリキュラムの主軸となる原則」3：ディスカッションが戦略的な読み手を育てる

Grabe and Stoller (2020, p.141) は、「リーディング・スキルの向上や戦略的な読み手を育てる上で、授業でのディスカッションは、欠くことができない」と主張する。ペア、グループ、クラス全体を問わず、ディスカッションは、(1)メイン・アイデアの理解の確認と(2)クラスメイトが使用するRSに対する意識を高める機会となると、その目的と効果を述べている。さらに、談話構造に対する意識も高められるとしている (p.141)。

加えて、ディスカッションを通していかにテキスト理解に達し、どんなRSを使い、RSがどんな目的を果たすのかなどをクラスメイトと共有し合い、経験することで戦略的な読み手が育つと述べている (p.141)。

彼らが定義する戦略的な読み手とは、

理解の困難さを克服し、理解するという目標を達成するために、いつ、どのように、なぜ、どのようなRSを使うのかを知っている読み手 (Grabe & Stoller, 2020, p.147)

である。戦略的な読み手を育てるために、テキストの内容理解を問う問題の答えをクラスメイトとディスカッションさせるのではなく、メイン・アイデアの理解やそれをサポートする文を確認させ、理解を深めるためのストラテジー使用についてディスカッションさせる。つまり、ディスカッションを通して理解の仕方を教えるのである。

3.3 「リーディング・スキル開発の原則」6：談話構造に対する知識を深め、その知識を理解力向上に役立てる指導を授業で継続的に行う

教育現場では、説明文¹⁾が、新たな事項を紹介し、教授する際に最も使用される (Grabe & Stoller, 2020, p.348)。日常生活においても、私たちは、説明文から必要な情報や新たな知識を得る。学習者にとって、説明文に慣れ、読みこなす力をつけることは重要であると言える。

一方で、説明文は、抽象的で、論理的枠組みによって組織化された概念的情報が伝えられるため、物語文などの他のジャンルに比べ、読解が困難であると言われる (Grabe & Yamashita, 2022, p.348)。Grabe and Yamashita (2022, p.348) は、学習者は、説明文で用いられる例文、事実、グラフなどの情報を基に、内容を理解し学習する必要がある、説明文の理解には、談話構造の理解が大きな役割を果たすと主張する。なぜなら、「談話構造は、学習者がテキストから学び、学習者をより深い理解へ導くための重要なリソースとなる」 (Grabe & Yamashita, 2022, p.341, 1.29-31) からだ。

談話構造は「テキストの情報を首尾一貫して伝えるために使われる構成のパターン」 (Grabe & Stoller, 2020, p.119) と定義される。この定義に従うと、説明文の談話構造には、記述・説明、順序、手順、年表、賛成と反対、原因と結果、分類、比較・対照、定義、問題と解決、分析などがあり、実際の英文では、組み合わせられて書かれたり、繰り返されたりす

1) テキストには様々なジャンルがあり、定義によって区分の仕方が異なる。その一つに説明的、物語的、説得的、助言的など、論理の種類によって分ける方法がある (Grabe & Yamashita, 2022, p.346-347)。本稿ではこの分け方を基に説明文、物語文などと区別する。

ることもある（Grabe & Stoller, 2020, p.119; Grabe & Yamashita, 2022, p.349）。

談話構造を明示的に指導することで学習者の文章理解が促進される。談話構造を明示的に指導する際には、グラフィック・オーガナイザー（以降、GOと略記）を活用することが効果的である（Grabe & Stoller, 2020, p.119）。GOは、文章の内容を視覚的に表現したもの（Jiang & Grabe, 2007, p.35）で、ベン図、マトリックス、フローチャートなどの図で表される（Grabe & Yamashita, 2022, p.306）。

GOにテキストの情報を書き込むことで、学習者は、テキストがどのような談話構造を成すのかについて気づき、重要な情報がテキスト内でどのように提示され、その情報をGOによってどのようにまとめるかを考えることになる。この活動によって、テキストの内容が理解しやすくなる（Jiang & Grabe, 2009, p.25-26）。GOに情報を埋めていく過程で、何度もテキストを読み返し、自身の理解を確認し、テキスト内の情報の関係を分析し、幾つかの情報をつなぎ合わせる。この作業が深いレベルで情報を処理することを促し、より深い理解に至ることが可能となる（Jiang & Grabe, 2009, p.35）。つまり、GOに取り組みさせることで、理解をテストするのではなく、理解の仕方を教えることになるのだ（Jiang & Grabe, 2009, p.25）²⁾。GOはほとんどのテキストの英文に適応可能なので、GOを用いた指導は既存のどんなカリキュラムにも適応可能である（Jiang & Grabe, 2009）。

談話構造に加えて、熟達した読み手は、原因や結果、対比、結論などを示す際に用いられるディスコース・マーカー（以降DMと略記）を活用する（Grabe & Stoller, 2020, p.145）。Grabe and Stoller (2020, p.155-156) では、D

2) GOによる指導法はJiang and Grabe (2009) を参照。

Mが13種類に分けられ、それぞれに豊富な具体例が示されている。例えば、原因や結果には“as a result, due to, therefore”，対比のDMには“but, however, in contrast”などがある。

本稿で紹介するStoller氏とGrabe氏の授業では、説明文が教材として使用される。上述のとおり、説明文は他のジャンルに比べ理解が困難だとされるが、学校のみならず日常生活においても何かを学び、必要な情報を得る際に最も接するジャンルである。そのため説明文の談話構造に習熟する必要がある。さらに、習熟には、明示的な指導が効果的であり、明示的な指導法としてGOやDMを活用することが有効である（Grabe & Stoller, 2020）。両氏の授業では、学習者に、GOやDMを用いて文章を理解する機会を豊富に与えている。

3.4 「リーディング・スキル開発の原則」8： 戦略的な読み手の育成は、RSを一つずつ教えるよりも効果的である

「熟達した読み手は、戦略的な読み手である」（Grabe & Stoller, 2020, p.147）。戦略的な読み手を育てるために、RSを一つ一つ教えていくのではなく、カリキュラムに戦略的な読み手の育成を目標にした指導を組み込むことが重要である（Grabe & Stoller, 2020, p.147）。彼らは戦略的な読み手を育てる指導として、(1)文章理解のためのRSを明示的に紹介し、(2)文章の読解中に、RS使用を意識的に行う機会を何度も取り入れ、(3)RSの使い方（いつ、どのように、なぜ使うのか）について教師のガイドによってディスカッションさせ、(4)初見の文章の読みでRSを（新しい組合せで）使用させ、(5)高難度の文章を（繰り返し）読む機会を与え、理解を深めるために使用したRSについてペアやグループでディスカッションさせることを提案している。

ディスカッションするためには、RSの名

前を学ぶ必要がある。例えば、RSの名称を紹介する際に、黒板に書いたり、壁に貼ったりして、一定期間残しておくことで、学習者はRSの使用により意識的になれる。その他のRSの訓練に有効な指導法として、教師が英文を音読しながら、(読みを成功させるために使用する)RSを声に出して学習者が分かるように言語化し、読み進めていくことも提案されている(Grabe & Stoller, 2018, p.56-59; 2020, p.147, p.179)。

RSには具体的にどのようなものがあり、いつ、どのように使用されるのだろうか。Grabe and Stoller (2020, p.156) は、RSを(1)Global RS, (2)Monitoring RS, (3)Support RSの3つに分類している。(1)のGlobal RSには previewing, paying attention to text structure, using discourse markers to see discourse relationshipsなど包括的なRSが含まれる。(2)には checking comprehension, rereading, reflecting on what has been learned from the text などメタ認知的に読みをモニターするRSが含まれ、(3)には using the dictionary, underlining or highlighting, using graphic organizers など読みをサポートするRSが含まれる。

Stoller氏とGrabe氏によると、学習者に最初に経験させるRSはpreviewing (以降プレビューと表記)がよい。多くの初級学習者は、文章のタイトルや絵・写真などに目を通したり、文章全体を眺めることをせず、いきなり文章を読み始めてしまうことが多いからだ。熟達した読み手が行うように、文章がどのような内容で、どのように構成されているのかを見通してから文章を読み始めるRSをまず身に付けさせることが必要なのだ³⁾。

両氏の授業ではRGのタスクを通して多様なRSを学習者に使用させる。学習者を熟達

した読み手に育てるために、様々な文章を使用して、以上で述べたようなRSの指導を継続して行い、多様なRSに習熟させることが重要である。

3.5 「教育・授業設計の原則」9：メイン・アイデアの理解の仕方を教えることは教室での指導の標準的な要素である

Grabe and Stoller (2020, p.148) は、教師は文章の理解をテストしがちであるが、理解の仕方を教えるべきであり、そのために、少なくとも以下のことを学習者に考えさせ、教え、(ペア・グループ・クラス全体で)ディスカッションさせることを提案している。

- ・いつ、なぜ、下読みし、予測し、予測を確認するのか
- ・メイン・アイデアの特定の仕方
- ・背景知識の活用方法
- ・未知語を理解するために、いかに、なぜ、いつ文脈の手がかりを使うか(手がかりがない場合、いかに他のテキスト情報を利用するか)
- ・文章理解を深めるために、適切な推論をいかに行うか
- ・理解を助けるための視覚情報の使い方
- ・いつ、どのような目的で再読するか(p.148-149)

以上の事項に取り組みさせるための有効な方法の一つとして、教師がRGを作成し、授業で用いることが提案されている(Grabe & Stoller, 2022, p.183)。RGをGrabe and Stoller (2020) は以下のとおり説明する。

RGは、ハンドアウトの形をとり、基本的には、学習者がメイン・アイデアを理解することを最低限の目標とし、熟達し

3) 両氏とのパーソナル・コミュニケーションによる。

た読み手が使用するRSを学習者に説明するためのものである。ガイドのタスクには、背景知識を考慮したり、目的を持って再読したり、クラスメイトとディスカッションしたりする機会が含まれる。（p.183）

つまり、教師が作成したRGに取り組むことで、学習者は文章のメイン・アイデアを理解し、熟達した読み手が使用するRSを自らも使用することができるのだ。両氏が授業時に配布した資料によると、RGは、難易度の高い教科書の文章、限られた教科書の課題、教科書を補強する文章を補うという役割を持つ。また、授業では、未知語、複雑な文法構造、長い文章、複雑な情報の連続、馴染みのない内容、抽象的な概念などを含む文章が扱われることがあるが、RGは文章を理解し、難解な文章を読みこなすのを助ける。加えて、理解度をテストするのではなく、理解を補助する役割を果たさなければならない。さらに、学習者をより高いレベルの読み手に導き、成功体験を積み重ねることで読み手としてのモチベーションと自己概念を高める。また、読んだ内容を基にライティングやスピーキングの活動につなげる。さらに、RGには、リーディング前・中・後のタスクが組み込まれており、授業内で、或いは宿題としても使用する。

RGを実際に使用する場合には、様々なタイミングで学習者に配布される。時には予習と初読課題付きのRGの一部だけが前の授業の終わりに配布されることもある。或いはRG全体を授業の最初に配布する場合もある。授業の目的と利用可能な時間によって、いつ、どれだけの量のRGを配布するかを決める。また、RGによる予習・復習は、通常、授業の終わりに行う。RGの最初の数項目（例え

ば、予習・予測タスク）だけを配布したり、スライドに表示したり、黒板に板書したりする。そして、明確に目的を示して、文章を読ませる⁴⁾。

両氏の授業では、両氏が作成したRGに基づいて、学習者はペアやクラス全体でのディスカッションを繰り返し行う。また、メイン・アイデアの理解をテストするのではなく、理解の仕方を教えることを意図したタスクが用意されている。つまり、学習者は、タスクに取り組むことで、様々なRSを使用しながら目的を持って何度も文章を読み、文章理解を深めることができる。

3.6 「教育・授業設計の原則」10：リーディング前・中・後の枠組みで授業を構成する

Grabe and Stoller (2020, p.149-150) は、授業の枠組みを、リーディング前、中、後に分けて構成することを提案する。それは、熟達した読み手がリーディングの前・中・後で使用する多様なリーディングのサブスキルやストラテジーを学習者が学び、練習できるようにするためである。

Grabe and Stoller (2020, p.183) は、リーディング前活動では、読む目的を設定することが重要であると述べる。また、熟達した読み手がリーディング前に用いるRSをモデル化し、学習者が練習できる機会とともに、理解に必要な情報（キーワードや背景知識など）を与え、学習者の興味を喚起し、自信と意欲を高める工夫をして、リーディングを成功に導くことが大切である主張する。

リーディング中活動では、読んだ内容と既知の内容を結びつける、推論する、理解度をモニターする、誤った理解を修正するなどの熟達した読み手が用いるRSを練習する機会

4) 両氏とのパーソナル・コミュニケーションによる。

を与えることが推奨される。RGを作成し、リーディング中に記入できるGOを準備し、文章の要約を行わせたり、難しい文章を理解できるように支援を行ったりすることが重要である (Grabe & Stoller, 2020, p.183-185)。

リーディング後では、再読、理解度の確認、文章の構成が理解度に与える影響などを考える機会を与える。具体的には、要約、(同じトピックのテキストを複数読んでいる場合には) 合成、筆者への反論などの活動が挙げられる。学習者がテキストから何を学び、理解を深めるためにどのようなRSを使用し、リーディング前活動で設定したリーディングの目標をどの程度達成できたかを振り返る機会が与えられるべきである (Grabe and Stoller, 2020, p.185)⁵⁾。

リーディング授業は多様であり、教師の役割も学習者が授業内外で行う課題の種類も様々である。そのため3段階に割り当てる時間も、指導目標、学習者の読解力やニーズ、授業時間、読解教材によって異なる。リーディング前活動に多くの時間を割くこともあるし、リーディング後の活動に多くの時間を割くこともある。1回の授業ですべての段階を行うこともあるが、複数の授業を使って3段階の読みを行うのが典型的である。さらに、出版されている教材で最も軽視されがちなのが、リーディング中のストラテジー使用であるため、リーディング中のストラテジー使用を促すタスクを取り入れることで、授業を充実させられる (Grabe & Stoller, 2020, p.149-150)。

次章で紹介するStoller氏とGrabe氏の授業は、1回の授業で、リーディング前・中・後のタスクを行えるよう構成されている。学習者が各段階で取り組むタスクは、目的を与え

た読みや再読 (p.138, 原則1)、メイン・アイデアの理解 (p.148, 原則9)、談話構造に対する意識の醸成 (p.145, 原則6)、熟達した読み手に育てるトレーニング (p.141, 原則3, p.147, 原則8) に焦点が当てられている。通常の授業で扱われる重要語彙や文法の指導は、この授業では行われない。また、授業で取り上げられるRSやスキルは、使用する英文を基に選択されている。つまり、英文が変われば、扱われるRSやスキルも変わるということである。上述のとおり、様々な英文を基に作成された種々のRGを通して、多様なRSやスキルを何度も経験させ、長期的な見通して持って、学習者を熟達した読み手に育てていくことが重要であることを強調したい。

4. Stoller氏とGrabe氏の授業の紹介

前述のとおり、両氏の授業はESL/EFL教師や研究者を目指す大学院生を生徒に見立てて行われた。生徒の気持ちを理解するために、院生にとって高難度な記事が教材として使用された。この記事のRGは約40分の授業時間を想定し作成された。つまり、リーディング教材とそれに付随するRG及び授業時間はESL/EFLの授業に適切な教材及び時間とは一致していない。学習者の数については、10人以下でも40人程度でも実施可能である。

Stoller氏とGrabe氏によると、この授業は、まず教材となる記事を選び、その記事を使ってどのような授業にするか、どのようなRGを作成するかを考えたということだ。両氏が選んだのは、都市で暮らす鳥 (finch) の巣にタバコの吸い殻が編み込まれていることについて書かれた記事である。タバコの吸い殻が編み込まれた巣には吸血の寄生虫の数が少ないことを発見した研究者が、鳥が意図的にタバコの吸い殻を巣に編み込んだのか、それとも偶然に編み込まれたのかを調査し、その結

5) 前・中・後の教師の役割と各段階に応じたRSについてはGrabe and Stoller (2020, p.184) の表を参照。

果を実証するまでを伝える。文のジャンルは説明文で、4段落で構成される。

第1段落は、「鳥の巣は鳥が周りの環境で手に入れられるものから作られる」という文で始まり、人里離れた郊外で暮らす鳥と都市で暮らす鳥の巣の材料の違いを説明する比較・対照の談話構造を成す。第2段落では、研究者がタバコの吸い殻が編み込まれた鳥の巣には寄生虫が少ないことを発見したが、それが意図的なのか偶然なのかが分かっていなかったことが説明される。第3段落はそれを突き止めるための実験の詳細が書かれ、手順の談話構造を成す。第4段落は、比較・対照の談話構造を成し、実験の結果が記される。研究者が、結果を踏まえて、鳥が寄生虫を巣に寄せ付けないうために、意図的にタバコの吸い殻を編み込んだことを主張したことがまとめられている。

今回のRGでは、(1)メイン・アイデアを読み取ること、(2)多様なRSを経験させること、(3)目的を与え繰り返し読ませること、(4)GOを使用し重要な情報を整理し、英文を理解することが中心に据えられた⁶⁾。

授業で扱った記事は以下のリンクから入手できる。2017年9月30日の*The Economist*に掲載された記事である。タイトルはButt in or butt out?（スーパータイトルがBirds' nests and parasites, サブタイトルがSome birds use discarded cigarettes to fumigate their nests）である。

<https://www.economist.com/science-and-technology/2017/09/30/some-birds-use-discarded-cigarettes-to-fumigate-their-nests>

表1には、RGのタスクとそのタスクの目的・意図を示す。タスクの下には、タスクの解答

6) 両氏とのパーソナル・コミュニケーションによる。

例を斜体で示し、そのタスクが促すRSもアンダーラインを引いて記載する。さらに、筆者が実際に授業を受けた経験を基に、それぞれのタスクに対して学習者がどのように反応し、どのような学びを得られるのかについて筆者の考えを記す。

表1が示す通り、リーディング活動を、前・中・後の3段階に分けて、それぞれの段階に応じたタスクが配置されている。前段階では、熟達した読み手が、文章を読み始める前に行う、プレビューと、タイトルや写真などからの内容の予測と読みの目標の設定を促すタスクが与えられる。また、第1段落まで読み進めた上で、予測の確認と目標の再設定を行わせる。さらに、ペアで予測や目標を比較させるとともにディスカッションを通してその根拠となる英文の情報を述べ合い、予測や目標を変更することを経験させる。

中段階では、メイン・アイデアの理解の仕方を教えるタスク、談話構造を示したGOに情報を記入させることで談話構造を明示的に指導し、談話構造に対する理解を深めるタスクが配置されている。さらにDMに意識を向けさせるタスクや読みの目標に応じて選択的に情報を読み取るRSを経験させるタスクもある。また、後段階のタスクでは、ペアやクラス全体でのディスカッションを通してメイン・アイデアの理解とその確認に取り組みせ、段落や全体の要約を行わせる。

前、中、後ともに、いずれかのタスクに、ペア或いはクラス全体でのディスカッションの機会が設けられている。前段階では、熟達した読み手が行う予測や読みの目標の変更を体験させるとともに、予測や読みの目標の根拠となる情報を教え合い、学び合う機会を提供する。中段階では第2段落の目的を考えさせる。また英文全体の談話構造にも注意を向けさせ、ディスカッションをさせる。後

段階では、記事全体のメイン・アイデアをペアでディスカッションさせながら要約させる。その上で、幾つかのペアに発表させ、クラス全体でディスカッションさせる。論拠となる英文の該当箇所を参照しながらクラス全員が合意できるメイン・アイデアを考えさせる。つまり、ディスカッションが理解の仕方を教える機会となっているのである。

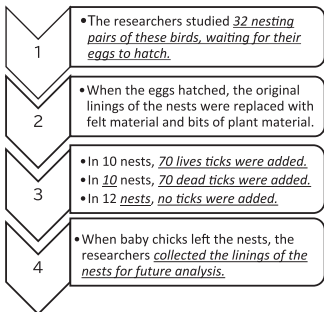
両氏のRGのすべてのタスクは、RSの使用を促すように作られている。表2に各タスクで使用されるRSをまとめた。表2が示すよう

に15のタスクに答えることで学習者は12種類のRSを合計33回経験する。また、学習者に始めに教えると良いとされるプレビューが最初に使用するRSとなるようにタスクが作られていることがわかる。最も使用するRSはrereadingで合計6回行う。目的を明確に与えた上で再読する機会を豊富に与えている。さらに、リーディング中のRS使用が豊富になるように意図されていることがわかる。加えて、Global, Monitoring, Support RSで分類するとGlobal RSが最も多い。

表1 Stoller氏とGlabe氏によるRG

タスク/解答例/RS/	目的・意図	学習者の学び
<p>リーディング前</p> <p>1. Based on the title, supertitle, subtitle, photograph, and caption, what do you think the article will be about? Write down 2 predictions.</p> <p>・ This article will tell a story about a bird that smokes to feel relaxed and to prevent parasites from infesting in its nest.</p> <p>・ This is about a bird that uses cigarettes to fumigate its nest and eliminate parasites.</p> <p>RS: <u>previewing, predicting</u></p>	<p>雑誌や新聞の記事には（スーパー/サブを含む）タイトルや写真・イラストがついていることが多い。熟達した読み手はリーディングの前にそれらを活用し、内容を予測する。教師はそれを学習者に伝え、意識的に行うように学習者を導く。テキストに付随するタイトルや写真、イラストを活用し文章をプレビューすることが内容理解に役立つことを体験させる。</p>	<p>タイトルには高難度の語彙が使用されているが、添えられた写真が理解を助ける。例えば、タイトル中の“butt”という単語を知らなかったとしても、教師がこの写真を見せ“<i>This is a butt.</i>”と説明することで、buttが「タバコの吸い殻」であると容易に理解できる。タイトルと写真から、鳥の巣とタバコの吸い殻に関する記事であることが推測できる。</p> <p>また、二つの答えが求められているので、異なった内容を予測することになり記事に対する関心が増す。</p>
<p>2. Reread the title, supertitle, and subtitle and then read paragraph 1.</p> <p>RS: <u>previewing, predicting, checking predictions, planning and forming goals for reading</u></p>	<p>再度、タイトルから得られる情報を基に内容を予測させ、その上で、第1段落まで読み進め、タスク1での予測について確認させる。さらに、第1段落までの読みを踏まえて、全体の内容を再度推測させ、読解の目標を形成させる。</p> <p>タスク2は、タスク1のプレビューと予測、タスク3の予測の確認、読みの目標と計画の立案を含むリーディング前タスクの一連の流れの一部をなす。つまりタスク1から3の連続体の一部と言える。</p>	<p>第1段落は“<i>Nests are made from things birds find in the environment.</i>”で始まり、郊外で暮らす鳥と都市の鳥の巣の違いに話が進む。そして、段落の最後の文から、都市に暮らす鳥は、タバコの吸い殻を意図的に巣に組み込むことを研究者のロドリゲス氏とガルシア氏が証明したことがわかる。第2段落以降にその詳細が書かれていると予測でき「どんな実験を行って実証したのだろうか?」と興味が湧く。タスク1と2を行うことで、その後の読解に意欲的に取り組める。</p>

タスク/解答例/RS/	目的・意図	学習者の学び				
<p>3. Turn to a partner and compare your predictions. Change them, if needed.</p> <p><u>RS: checking predictions, planning and forming goals for reading, discussing text content</u></p>	<p>タスク1と2のまとめであり、タスク1と2を自力で行うことによつてのみ、学習者はペアで共有できるものを得られる。予測が大きく異なるかもしれないため、このディスカッションは有益なものとなる。互いの予測を比較しながら、予測の根拠となる情報を教え合い、学び合うことができる。</p> <p>熟達した読み手は、文章を読み進める過程で予測を変えることがしばしばある。学習者に自身の予測を変える機会を与えることで、熟達した読み手のRSを経験させる。</p>	<p>予測が異なれば、記事に基づいてお互いの予測の根拠を述べ、予測を修正・発展させられる。このディスカッションを通して、記事から何を知ることができるのかがより明確になる。つまり、第2段落以降でどんな情報を読み取ることになるのかといった読みの目標が立てられる。ロドリゲス氏とガルシア氏がどんな実験を行い、どんな結果を得たのかを予測する機会となる。</p> <p>さらにタスク1から3に取り組む過程で、鳥の巣作りの背景知識が活性化され、パートナーから新たな背景知識を得られるかもしれない。</p>				
<p>リーディング中</p>						
<p>4. Reread paragraph 1. What are differences between rural and urban bird nests?</p> <table border="1" data-bbox="166 884 500 1070"> <tr> <td>Rural bird nests</td> <td>Urban bird nests</td> </tr> <tr> <td>twigs leaves</td> <td>plastic bags paper aluminum foil electrical cables cigarette butts</td> </tr> </table> <p><u>RS: rereading, using discourse markers to see discourse relationships, paying attention to text structure, using graphic organizers</u></p>	Rural bird nests	Urban bird nests	twigs leaves	plastic bags paper aluminum foil electrical cables cigarette butts	<p>第1段落は、郊外と都会の鳥の巣作りの違いを比較・対照する談話構造を成す。郊外と都市の鳥の巣の違いを示すGOを完成させることで、巣の材料の違いを読み取らせ、理解を促す。また、この談話構造と比較・対照を示すDMに意識を向けさせる。GOを完成させるという目的を持たせ再読させる。</p>	<p>GOで内容をまとめることで、郊外の鳥と都会の鳥の巣の材料の違いが明確になり、記憶に残りやすい。また、この段落が比較・対照の談話構造であり、段落の最後でメイン・アイデアが述べられていることが理解できる。3行目の“more”はcomparison signals, 6行目の“but”は, contrast signalsを示すDMであることを学ぶことができる。さらに、「この段落では鳥の巣の違いが書かれているからその違いに注意しながら再度読みなさい」というような指示とは異なり、明確な目的が与えられるため、意欲的に再読に取り組める。</p>
Rural bird nests	Urban bird nests					
twigs leaves	plastic bags paper aluminum foil electrical cables cigarette butts					
<p>5. Based on paragraph 1, what is the key issue? Work on your own.</p> <p>a. In what sentence in paragraph 1 is the key issue stated? <i>The last sentence of the paragraph.</i></p> <p>b. What do you hope to learn in the rest of the article based on paragraph 1? <i>I hope to know how the researchers demonstrated that birds intentionally weave cigarette butts into their nests!</i></p> <p><u>RS: (a) identifying important information /main ideas, (b) planning and forming goals for reading</u></p>	<p>(a)は重要な情報やメイン・アイデアの理解をテストするのではなく、メイン・アイデアの理解の仕方を教えることを目的とする(3.4を参照)。(b)は、第1段落を踏まえて、第2段落以降でどのような情報を読み取りたいかという目標を考えさせる。</p> <p>授業ではタスク(a)と(b)を各自で行わせ、ペアで答え合わせをさせる。その後、一名か二名のボランティアを募り、(a)と(b)の答えをクラス全体の前で発表する機会を作る。ペアでの確認と全体での共有を通して、メイン・アイデアの理解の確認とクラスメイトが使用するRSに対する意識を高める機会を提供する。</p>	<p>郊外の鳥の巣の材料の一つであるタバコの吸い殻が、実は意図的に巣に使われていたことをロドリゲス氏とガルシア氏が明らかにしたということが段落の最後の文で示されており、この文がこの段落のカギであることが読み取れる。また、タスクの解答をペアやクラス全体で共有することで、多様な意見を知る機会が得られる。メイン・アイデアや重要な内容は段落の最初か最後に書かれることが多いといった談話構造に対する知識を共有する機会にもなる。さらに第2段落以降で何を読み取りたいのかを考え、ペアやクラスで共有することで第2段落以降の読みに対する意欲が増す。</p>				

タスク/ 解答例 / RS /	目的・意図	学習者の学び
<p>6. Read paragraph 2.</p> <p>a. What did Dr. Suárez-Rodríguez learn in her early research? <i>When cigarette butts were woven into nests, there were fewer blood sucking parasites.</i></p> <p>b. What was Dr. Suárez-Rodríguez unable to show in that early research? <i>Dr. Suárez-Rodríguez was unable to show if cigarette butts were woven into nests deliberately.</i></p> <p>c. With a partner, discuss the purpose of paragraph 2. <i>Paragraph 2 is an expansion of the last sentence of paragraph 1, where the key issue is stated. It becomes a bridge to paragraph 3.</i></p> <p>RS: (a)(b) <u>identifying important information/main ideas, summarizing,</u> (c) <u>discussing text content</u></p>	<p>第2段落では、郊外の鳥が意図的にタバコの吸い殻を巣の材料に使うという事実を実証するまでの経緯が示されている。(a)ではロドリゲス博士が初期の研究で、タバコの吸い殻が編み込まれた巣は、そうでない巣に比べて、血を吸う寄生虫が寄生しにくいことを明らかにしたこと、(b)ではタバコの吸い殻が、意図的に編み込まれたのか否かを実証することができなかったことを理解させ、要約させる。いずれも研究の経緯を理解する上で重要な情報である。また(c)の第2段落がどのような目的のものかという問いにより、記事全体の段落間のつながりや談話構造に注意を向けさせ、ディスカッションの機会を与える。</p>	<p>(a)と(b)に取り組むことで、タバコの吸殻は偶然ではなく、意図的に巣に編み込まれていることを実証する以前にロドリゲス博士は何を実証しているかについて理解が深まる。</p> <p>(c)に取り組むことで、第2段落では、タバコの吸い殻が意図的に編み込まれている事実を証明したという第1段落の最後の記述内容に至るまでの経緯が述べられていることに気づく。また、第2段落の目的をペアでディスカッションすることで、未解決なことに対する二つの仮説が提示されていることを確認でき、この段落が、第3段落への橋渡しの役割も果たしていることに気づける。ペアでのディスカッションを通して多様な見方を知り、第2段落の内容理解がさらに深まる。</p>
<p>7. Read paragraphs 3 and 4. Think about more recent research efforts and findings.</p> <p>RS: <u>reading selectively according to goals</u></p>	<p>タスク8を完成させる準備のためのタスクである。第2段落で示された仮説を検証するために行われた研究とその結果について考えるという指示を与えることで、どのような情報に注目するのかということを明確にして、読む目的を与える。</p>	<p>全体をスキミングして概要を素早く読み、実験の情報をスキミングするという多様な読みを経験できる。第2段落の最後の文で示された仮説を検証するための実験の方法とその結果が記されていることを読み取れる。3群に分けて実験を行ったことや数字に注意が向く。また、実験に関する詳しい情報を読み取りたいという意欲が湧く。</p>
<p>8. Chart the sequence of Dr. Suárez-Rodríguez and Dr. Macías García's experiment, referring to paragraph 3.</p>  <p>RS: <u>rereading, paying attention to text structure, using graphic organizers, Identifying important information</u></p>	<p>タスク7で研究について概要をつかんだ上で、手順のGOを用いて、実験の詳細と流れを表にまとめることで、第3段落の内容を理解させる。この段落が手順の談話構造を成していることに気づかせる。実験に関する重要な情報を特定するという目的を持たせ、再読する機会を与える。</p>	<p>GOに実験の流れを理解する上でカギとなる情報を書き込むことで、実験の手順と詳細が明確になり、理解が深まる。この段落が手順の談話構造であることに気づくことができる。また、表に重要事項を書き込む過程で、改めて第3段落をスキミングして特定の情報を読み取るための再読を行う。加えて、手順を示すDMにも注意が向く。</p>

タスク/ 解答例 / RS /	目的・意図	学習者の学び						
<p>9. Return to paragraph 3. Underline the two clauses that helped explain a step, but were not separate steps themselves.</p> <ul style="list-style-type: none"> • “a time when, the researchers knew, meddling with the nests would be unlikely to cause finches to abandon them—” • “Once the new linings were in place” <p>RS: <u>rereading, paying attention to text structure, using discourse markers to see discourse relationships</u></p>	<p>タスク8でGOを使用して、実験の手順について表にまとめさせた上で、ここでも第3段落の談話構造に意識を向けさせる。手順の説明で使用される二つの節に下線を引かせることで、英文の談話構造と手順を伝える際に使用されるDMに気づかせる。手順を示すDMを探するという目的を与えて再読させる。</p>	<p>手順を説明する節を二つ探すためにスキミングする。また第2段落の談話構造が実験の手順を表すものであること、手順を表す際に、“when”や“once”といった接続詞が使われるとうことを学ことができる。</p>						
<p>10. Reread paragraph 4 and identify the researchers' findings.</p> <div data-bbox="171 821 500 1043" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="3" style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">Research Findings</th> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 33%;"> Nests with no ticks <i>No</i> <u>cigarette</u> <u>butts</u> <u>added</u> </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 33%;"> Nests with dead ticks <i>No</i> <u>cigarette</u> <u>butts</u> <u>added</u> </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 33%;"> Nests with live ticks <i>On</i> <u>average,</u> <u>12%</u> <u>cigarette</u> <u>butts</u> <u>added to</u> <u>each</u> </td> </tr> </table> </div> <p>RS: <u>rereading, using graphic organizers</u></p>	Research Findings			Nests with no ticks <i>No</i> <u>cigarette</u> <u>butts</u> <u>added</u>	Nests with dead ticks <i>No</i> <u>cigarette</u> <u>butts</u> <u>added</u>	Nests with live ticks <i>On</i> <u>average,</u> <u>12%</u> <u>cigarette</u> <u>butts</u> <u>added to</u> <u>each</u>	<p>タスク7で第4段落に記載されている研究結果の概要をつかませた上で、比較・対照を示すGOを用いて3群の結果を実際に記入させ、実験結果の理解を促す。GOを完成するという目的を与え再読させる。</p>	<p>70の生きた寄生虫が加えられた群、70の生きていない寄生虫が加えられた群、寄生虫が加えられなかった群の巣の違いを記入することで結果の違いが一目瞭然となり、理解が深まり、記憶にも残りやすい。さらにこのタスクでも3群の違いをGOでまとめるという目的が与えられたため、再読に対する意欲が増す。さらに実験結果が書かれているいわばクワイマックスであるため、わくわくしながら読み、GOを完成させられる。</p>
Research Findings								
Nests with no ticks <i>No</i> <u>cigarette</u> <u>butts</u> <u>added</u>	Nests with dead ticks <i>No</i> <u>cigarette</u> <u>butts</u> <u>added</u>	Nests with live ticks <i>On</i> <u>average,</u> <u>12%</u> <u>cigarette</u> <u>butts</u> <u>added to</u> <u>each</u>						
<p>リーディング後</p>								
<p>11. Based on the study, what did the researchers conclude?</p> <p><i>They concluded that finches do indeed deliberately collect cigarette butts to keep ticks at bay and improve the survival of their young.</i></p> <p>RS: <u>rereading, summarizing</u></p>	<p>研究の結果を要約させる。RGには指示はないが、実際にはペアで取り組ませる。そうすることで、要約に意欲的に取り組ませ、第4段落の文章やGOを再読することを促す。</p> <p>授業時間が足りなくなった場合、例えば、リーディング後のタスクを宿題にすることもある。</p>	<p>ロドリゲス博士とガルシア博士が実験の結果から主張した内容がどこに書いてあるのかを探すために、タスク10で記入したGOと英文を再度スキミングする。重要な内容なので最後に書かれているだろうという予測も働かせ読み進め、最後の文の“Based upon these findings”という表現から、この後に結論が述べられていると推測できる。ペアでのディスカッションでは、お互いに英文とGOを再読しつつ、意見を述べ合い、ロドリゲス博士とガルシア博士が実証したことを確認する。</p>						

タスク/解答例/RS/	目的・意図	学習者の学び
<p>12. Review the full passage. With a partner, decide on 3-4 main ideas that the author would likely want readers to remember.</p> <p>・ <i>Birds build nests from materials found in their environment, and some urban birds use cigarette butts to build their nests. Mexican scientists Dr. Suárez-Rodríguez and Dr. Macías García have shown that urban birds intentionally weave cigarette butts into their nests.</i></p> <p>・ <i>They conducted an experiment with 32 pairs of finches, a type of bird which nests on their university campus, and they first provided evidence of this behavior in 2012.</i></p> <p>・ <i>In the study, they divided the 32 pairs of birds into three groups, and found an average of 1.25 cigarette butts in the bird nests in which live parasites were placed, while no cigarette butts were discovered in bird nests in which dead parasites were placed or in those in which no parasites were placed.</i></p> <p>・ <i>Based on these results, they concluded that finches deliberately place cigarette butts in their nests to prevent the infestation of parasites.</i></p> <p>RS: rereading, discussing text content, summarizing</p>	<p>この記事のメイン・アイデアは何か、筆者は読者に何を最も伝えたいのかを考えながら記事全体を再読させる。ペアで行うことで記事の内容についてディスカッションしながら、メイン・アイデアを要約させられる。</p> <p>このタスクの正解となるメイン・アイデアの組合せは一つではない。学習者やペアによって答えは異なり、答えの中には受け入れがたいものがあるかもしれない。それを踏まえた上で、幾つかのペアにボランティアで答えを発表させ、クラス全体でディスカッションする。そうすることで、記憶や直感に頼らず論拠となる英文を参照しながら、クラス全員が合意できるメイン・アイデアの組み合わせをいくつか探させる。つまり、このタスクで理解の仕方を教える機会を与える。</p> <p>加えて、タスク12までに、学習者は再読を繰り返し、RGに記入し、本文についてディスカッションし、メイン・アイデアを特定してきた。このタスクは、学習者にそれらを要約させるまとめのタスクである。</p>	<p>記事の筆者が最も伝えたいことをペアでディスカッションすることで、英文の理解がさらに深まる。英文の内容を根拠に、それぞれの意見を交換できる。</p> <p>3つか4つという具体的な数を与えられたことで、4段落から成る記事なので各段落から一つずつメイン・アイデアを探するという見通しを持って、再読することができる。各自で読み進めていき、段落毎に答えとなりそうな内容をペアでディスカッションしながら考えられる。例えば、「鳥は身の回りにあるもので巣を作る」という内容は知られている事柄であるかもしれないが、博士らの発見の前提になる知識なので、メイン・アイデアに組み入れるべきか否かをペアやクラス全体で話し合うことで英文を深く理解できる。</p>

表2 Stoller氏とGrabe氏のRGのタスクが促すRS

RS	タスク番号												使用回数	RSの3分類					
	1	2	3	4	5a	5b	6a	6b	6c	7	8	9		10	11	12	G	M	S
rereading				✓							✓	✓	✓	✓	✓	6		✓	
identifying important information/main ideas					✓		✓				✓					3	✓		
paying attention to text structure				✓							✓	✓				3	✓		
planning and forming goals for reading		✓	✓			✓										3	✓		
summarizing								✓						✓	✓	3	✓		
discussing text content			✓						✓						✓	3			✓
using graphic organizers				✓							✓		✓			3			✓
checking predictions		✓	✓													2	✓		
predicting	✓	✓														2	✓		
previewing	✓	✓														2	✓		
using discourse markers to see discourse relationships				✓								✓				2	✓		
reading selectively according to goals										✓						1	✓		

GはGlobal RS, MはMonitoring RS, SはSupport RSをそれぞれ示す。

5. リーディング指導の提案

本章では、Stoller氏とGrabe氏によるリーディング授業とRGを基に、日本の検定教科書の英文を用いて、リーディング指導・RGを提案する。英文には三省堂の『CROWN English Communication I, New Edition』（霜崎, 2020）のLesson 9 Optional Reading（付録を参照）を使用する。実際の教科書には、英文の他に映画『アイ, ロボット』のポスター、重要語・熟語・表現とその日本語訳が掲載されている。

この英文のタイトルは、Are Robots Going to Take Our Jobs?で、5段落から成る説明文である。第1段落では、工場、コンビニや寿司屋などがかつて人間が担っていた作業をロボットが行っている現状が紹介され、「ロボットの登場によって人の仕事は奪われるか」という問いがなされる。段落の最後の文で、その問いに対するMITの研究者であるAutor氏の「人の仕事が奪われることはないであろう」という見解が示される。第2段落では、コンピュータが容易にできることと困難なこと⁷⁾のAutor氏の主張が書かれ、第3段落ではその詳細な例が紹介される。第4段落では人間がコンピュータに勝る点が主に論じられ、第5段落では、タイトルと第1段落で示された問いに関連して、将来コンピュータが担うであろう仕事を示した上で、人（の能力）が必要とされる仕事があるという主張がなされる。

この英文の第1・2・5段落の談話構造は明快である。第1段落は記述・説明で、第2段落が比較・対照であり、第5段落は分類である。一方、第3と第4段落は複雑な構造を有する。第3段落の第1文では例が、第2と第3文では例の詳細が、第4と第5文では、

第1から第3文の内容との対比が示される。第4段落は、第1文では記述・説明がなされ、第2文は第1文の内容との比較・対照であり、最後の第3文で結論が述べられる。

本稿では、この英文を用いた1回の授業（50分）を想定したリーディング指導・RGを提案する。事前に英文に関連する内容を別の英文を使用し読み、使用される単語や文法は既に学んでいることを想定している。つまり、モデルとしたStoller氏とGrabe氏の授業のように、単語や文法の指導は含まず、リーディングを中心とした指導となっている。表3に、RGのタスクとそのタスクの目的・意図を示す。また、タスクの下に解答例を斜体で示し、そのタスクによって促されるRSについてもアンダーラインを引いて提示する。

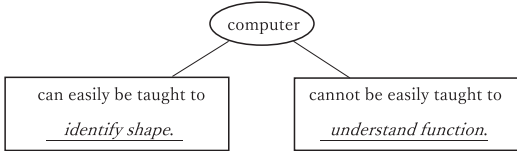
表3が示すとおり、Stoller氏とGrabe氏の授業をモデルにリーディング前・中・後の3段階に分け、それぞれにタスクを配置した。リーディング前は、熟達した読み手が読み始める前に行く、タイトルや写真によるプレビューと予測のRSを体験させ、第1段落まで読ませた上で予測の確認と修正を行わせる。途中で予測を修正することも熟達した読み手が行うRSであり、これも経験させる。また、タイトルや写真、第1段落までの読みを基に予測を確認させた上で、ペアで予測を比較させ、異なる場合は予測の根拠となる情報を教え合わせる。このディスカッションは教え合い・学び合いの機会を提供するためのものである。

7) 第2段落以降ロボットとコンピュータが同一のものとして論じられる。

表3 Are Robots Going to Take Our Jobs? のRG

タスク / 解答例 / RS	目的・意図				
<p>[Note to teachers: Before using the reading guide with your students, ask students to number paragraphs 1-5 (if they are allowed to mark their textbooks)].</p>					
<p>リーディング前</p>					
<p>1. Based on the title and photograph, what do you think the passage is about? Make 2 predictions. • <i>This passage will suggest that robots will take our jobs in the future.</i> • <i>This passage will describe a future where robots replace humans, and humans no longer need to work.</i> [Note: Students might make other acceptable predictions.] RS: <u>previewing, predicting</u></p>	<p>このタスクの目的は、本文を読む前に、タイトルや写真を使って、本文の内容を予測するように、学習者を意識的に導くことである。 このタスクにより、学習者は、熟達した読み手が用いるプレビューや予測といったリーディング前のRSを体験することができる。また、このようなRSがリーディング前に本文の内容を予測するのに役立つことを学習者が理解することにも役立つ。学習者はこのタスクによって、これから何を読み、何を学ぶかを予測する。</p>				
<p>2. With your predictions in mind, reread the title and then read paragraph 1. Change your predictions if you need to. RS: <u>rereading, previewing, predicting, checking predictions, planning and forming goals for reading.</u></p>	<p>このタスクでは、学習者はタスク1の予測を確認または変更し、第1段落の情報を使って本文の内容を特定する。また、第2段落以降の内容を予測し、読みの目標（この本文から何を学べるか）を立てる。 さらに、タスク2は、タスク1のプレビュー・予測、タスク3の予測の確認、目標の立案と形成を含むリーディング前の一連の流れの一部である。つまりこのタスクはタスク1からタスク3までの連続体の一部である。</p>				
<p>3. Turn to a partner and compare your predictions. Change them, if needed. RS: <u>checking predictions, planning and forming goals for reading, discussing text content</u></p>	<p>このタスクの目的は、タイトル、写真、第1段落を基に、ペアで予測を確認させ、ディスカッションさせることである。加えて、第2段落以降の本文全体がどのような内容なのかを予測させることである。 学習者の予測が大きく異なる可能性があるため、このディスカッションは有益である。ペアでのディスカッションでは、学習者は互いの予測を比較し、予測の根拠となる情報について教え合い、学び合うことができる。</p>				
<p>リーディング中</p>					
<p>4. Reread paragraph 1. Where can you find robots that work for us? List them in the box below.</p> <table border="1" data-bbox="234 1489 610 1624"> <tr> <td>Places you can find robots</td> </tr> <tr> <td><i>factories</i></td> </tr> <tr> <td><i>convenience stores</i></td> </tr> <tr> <td><i>sushi shops</i></td> </tr> </table> <p>RS: <u>rereading, using graphic organizers, paying attention to text structure</u></p>	Places you can find robots	<i>factories</i>	<i>convenience stores</i>	<i>sushi shops</i>	<p>このタスクの目的は、学習者に、ロボットがいる場所を記述的・説明的に列挙させることである。 この段落の談話構造は記述・説明であることを学習者に気づかせる。単純な記述・説明は、多くの場合、特定のタイプ（この場合はロボットを見つけれられる場所）のリストとして提示される。</p>
Places you can find robots					
<i>factories</i>					
<i>convenience stores</i>					
<i>sushi shops</i>					

タスク / 解答例 / RS	目的・意図										
<p>5. Based on paragraph 1, answer these three questions. Work on your own.</p> <p>a. What is the key issue? <i>The key issue is whether we will lose our jobs to robots.</i></p> <p>b. In what sentence(s) in paragraph 1 is the key issue stated? <i>Sentences 2 and 3: Are we going to lose our jobs to robots? Maybe not, says MIT scholar David Autor.</i></p> <p>c. What do you hope to learn from the rest of the passage? <i>I hope to know clear reasons why we will not lose our jobs to robots in the rest of this passage.</i></p> <p>[Note: Students are likely to have multiple answers/responses that are acceptable. When there are differences in opinion, the class can discuss them.]</p> <p>RS: (a)(b) <u>identifying important information/main ideas</u> (c) <u>planning and forming goals for reading</u></p>	<p>タスク(a)と(b)の目的は、学習者が重要な情報やメイン・アイデアを理解しているかをテストするためのものではなく、それらに理解する方法を学習者に教えることである。</p> <p>タスク(c)は、学習者に読みの目標を考えさせ、第1段落を基に、第2段落以降でどのような情報を読み取ればよいのか（どのような内容が記述されているか）を考えさせることである。</p> <p>(a)(b)(c)のタスクを学習者自身に（つまり個人で）行わせ、その後ペアで答えを比較させ、その後、一人か二人のボランティアを募り、クラス全体の前で(b)と(c)の答えを発表する機会を与えることが推奨される。ペアでの確認やクラス全体で共有することを通して、メイン・アイデアを理解しているかの確認やクラスメイトが使用しているRSへの意識を高める機会を与えることを目的とする。</p>										
<p>6. Read paragraph 2. Think about the relationship between robots and computers. Then complete the two questions below.</p> <p>a. What is the relationship between robots and computers? <i>All robots have computers.</i></p> <p>[Note: Learners may use different words to express this idea. That's OK. There might be multiple acceptable answers.]</p> <p>b. Identify easy and difficult/impossible types of tasks for computers in the first chart, and provide specific examples given by MIT scholar David Autor in the second chart below.</p> <table border="1" data-bbox="166 1078 687 1174"> <thead> <tr> <th data-bbox="166 1078 426 1112">Easy for computers to do</th> <th data-bbox="430 1078 687 1112">Difficult for computers to do</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="166 1118 426 1174">· <u>high-level intellectual work</u></td> <td data-bbox="430 1118 687 1174">· <u>simple low-level tasks</u></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="166 1190 687 1329"> <thead> <tr> <th data-bbox="166 1190 426 1251">Examples of easy tasks</th> <th data-bbox="430 1190 687 1251">Examples of difficult or impossible skills</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="166 1257 426 1292">· <u>intelligence tests</u></td> <td data-bbox="430 1257 687 1292">· <u>playing checkers</u></td> </tr> <tr> <td data-bbox="166 1298 426 1329">· <u>skills of perception</u></td> <td data-bbox="430 1298 687 1329">· <u>skills of mobility</u></td> </tr> </tbody> </table> <p>RS: (a) <u>identifying important information</u>, (b) <u>using graphic organizers, using comparison and contrast with examples (one type of common of text structure)</u></p>	Easy for computers to do	Difficult for computers to do	· <u>high-level intellectual work</u>	· <u>simple low-level tasks</u>	Examples of easy tasks	Examples of difficult or impossible skills	· <u>intelligence tests</u>	· <u>playing checkers</u>	· <u>skills of perception</u>	· <u>skills of mobility</u>	<p>タスク(a)の目的は、学習者にロボットとコンピュータの関係を推測させ、本文で使われる両単語が同じものを表現していることに気づかせることである。</p> <p>タスク(b)の目的は、学習者がGOを使用して重要な情報を特定することで、学習者の文章理解を助けることである。加えて、第2段落が比較・対照の談話構造を有していることに気づかせることである。</p>
Easy for computers to do	Difficult for computers to do										
· <u>high-level intellectual work</u>	· <u>simple low-level tasks</u>										
Examples of easy tasks	Examples of difficult or impossible skills										
· <u>intelligence tests</u>	· <u>playing checkers</u>										
· <u>skills of perception</u>	· <u>skills of mobility</u>										
<p>7. Now read paragraphs 3 and 4. Look for more examples of easy and difficult tasks/skills for computers.</p> <ul style="list-style-type: none"> · easy skills: <i>skills of identifying shape</i> · difficult skills: <i>skills of recognizing a picture of a chair, skills of recognizing the difference between a toilet and a traffic cone, skills of understanding the concept of function, common sense skills</i> · difficult tasks: <i>tasks of tying shoes, tasks of identifying a species of insect</i> <p>RS: <u>reading selectively according to goals</u></p>	<p>このタスクの目的は、コンピュータにとって簡単なスキルとタスクと難しいスキルとタスクのそれぞれの例をより多く見つけることである。加えて、タスク8に取り組むための準備のタスクでもある。</p> <p>このタスクによって、教師は、第3段落と第4段落には概念的なスキルと具体的なタスクの両方が含まれていることを学習者に気づかせることができる。</p>										

タスク / 解答例 / RS	目的・意図
<p>8. Reread paragraph 3 to complete (a), (b), and (c) below.</p> <p>a. In the boxes below, identify what computers might see as a chair.</p> <p>Computers might see a toilet and a traffic cone as a chair.</p> <p>b. Identify what is easy to teach and what is difficult to teach a computer.</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>c. What conclusion does the author of the reading passage make about computers? <i>Computers simply lack “common sense.”</i></p> <p>RS: (a)(b) <u>using graphic organizers</u>, (a)(b)(c) <u>paying attention to text structure</u>, <u>using discourse markers to see discourse relationships</u>, rereading, (c) <u>identifying important information/main ideas</u></p>	<p>このタスクは、タスク7の第3段落と第4段落の読解に基づき、学習者がGOを使って第3段落の内容を理解することを目的とする。教師は、この段落の談話構造が単純ではないことを、学習者に気づかせることが重要である。第1文は例を示し、第2文と第3文は第1文で示された例の詳細が示されている。つまり、第3文までは説明的な構造を成す。続く第4文と第5文は子どもとの対比構造になっており、第6文ではコンピュータにとって簡単なことと難しいことが対比されている。要するに、記述・説明と比較・対照という二つの談話構造が組み合わされている。そして最後にカギとなる文が置かれている。</p> <p>タスク(a)と(b)に取り組むことで、学習者が複雑な談話構造に気づき、この段落で本文の書き手が伝えたいメッセージを理解することを目標とする。</p>
<p>9. Reread paragraph 3.</p> <p>a. Find the two words that help you understand the contrast between a child/person and a computer. <i>However, but</i></p> <p>b. Find the phrase that introduces the conclusion. <i>In short</i></p> <p>RS: (a)(b) <u>paying attention to text structure</u>, <u>using discourse markers to see discourse relationships</u>, rereading</p>	<p>このタスクは、対比と結論のDMに学習者の注意を向けさせ、DMに対する意識を高めることを目的としている。第3段落では、記述・説明と比較・対照の両方の談話構造が用いられており、カギとなる文が最後に提示されている。このタスクによって、学習者が、最後のカギ、つまり結論の部分認識し、対比を示すDMの“However”と“but”や結論を導くDMの“In short” (Grabe & Stoller, 2020, p.155-156) に注意を向け、気づくことを目的としている。</p> <p>加えて、このタスクは、学習者に、第3段落を再読するための明確な目的を与えている。</p>
<p>10. Reread paragraph 4.</p> <p>a. Identify two examples of complex tasks that humans can do without understanding all the details of the process, and write them in the boxes below. Humans can perform complex tasks such as tying our shoes and identifying a species of insect.</p> <p>b. What is the main idea of paragraph 4? Write it in your own words. <i>Humans will have opportunities to work with computers to provide common sense that even the most intelligent computers don't have.</i></p> <p>c. Find the word that shows an example is coming. <i>like</i></p> <p>[Note: Students might give other acceptable answers to (b).]</p> <p>RS: (a) <u>using graphic organizers</u>, (b) <u>identifying important information/main ideas</u>, summarizing, (a)(c) <u>paying attention to text structure</u>, <u>using discourse markers to see discourse relationships</u>, (a)(b)(c) <u>rereading</u></p>	<p>この段落の談話構造は次のとおりである。第1文は記述・説明の構造で、第2文は比較・対照の構造で、人間とコンピュータを比較している。第3文(最終文)は、第1と第2文に基づいて結論を示している。学習者がこの段落の構造を認識し、タスク(a)と(b)に答えることで内容理解を深めることがこのタスクの目的である。さらに第4段落のメイン・アイデアを自身の言葉で書くことで、理解を深める。</p> <p>タスク(c)では、タスク(a)で得た理解を基に、比較の際に用いられるDMの“like” (Grabe & Stoller, 2020, p.155) を学習者に意識させることを目的とする。</p> <p>加えて、学習者に具体的な目的が与えられ、第4段落を再読させている。</p>

タスク / 解答例 / RS	目的・意図
<p>11. Reread paragraph 4 and only read the first sentence of paragraph 5. What does “that” in the first sentence of paragraph 5 refer to? <i>There will always be opportunities for humans to work with computers to supply the common sense that even the most intelligent computers lack.</i></p> <p>RS: <u>identifying anaphoric cues, rereading</u></p>	<p>Grabe and Yamashita (2022, p.338) で述べられているように、熟達した読み手は、高難度なテキストで代名詞が何を指し示しているかを確認する。このタスクの目的は、代名詞が何を指し示しているかの確認を学習者に実際に体験させることである。第5段落の最初の文の“that”は第4段落の最後の文を示している。このタスクを通して、学習者は第4段落と第5段落の間に強いつながりがあることに気づくことができる。</p> <p>さらに、このタスクは学習者が明確な目的を持って再読することを促す。</p>
<p>12. Read all of paragraph 5.</p> <p>a. Fill in the chart below with a job that computers might do in the future.</p> <p>b. Fill in the chart with the three skills needed for the jobs that humans will do in the future.</p> <div data-bbox="166 726 680 935" style="text-align: center;"> <pre> graph TD A([future job]) --- B[a computer's job] A --- C[human skills needed for jobs] B --- D[• routine work] C --- E[• interpersonal interaction] C --- F[• flexibility] C --- G[• problem solving] </pre> </div> <p>RS: (a)(b) <u>using graphic organizers, identifying important information</u></p>	<p>第5段落は、分類の談話構造を示しており、将来コンピュータが行うようになる仕事と、将来の仕事に必要とされる人間のスキルを分類している。このGOのタスクの目的は、学習者がGOを使用して内容を要約することで、談話構造を意識し、第5段落の理解を深めることである。</p>
<p>リーディング後</p>	
<p>13. Think about what you have learned from the passage. Work with a partner to complete (a) and (b). Feel free to refer back to the passage while working with your partner.</p> <p>a. Based on the passage, are robots going to take our jobs? Answer with a full sentence. <i>We will not lose our jobs to robots.</i></p> <p>b. List 3-4 ideas/reasons in the passage that helped you answer the question above (the title of the reading passage).</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>Teaching computers the perception and mobility skills of a one-year-old child is difficult or nearly impossible.</i> • <i>Teaching computers to understand function is difficult because they lack “common sense.”</i> • <i>Computers may never be able to develop complex tasks, such as tying shoes or identifying a species of insect, without fully understanding all the details of the process.</i> • <i>Computers will improve at doing routine tasks currently done by humans, but we will still be needed for jobs involving interpersonal interaction, flexibility, and problem-solving.</i> <p>[Note: Students might give other acceptable answers to (b).]</p> <p>RS: (a)(b) <u>rereading, discussing text content, summarizing</u></p>	<p>このタスクの目的は、学習者が本文を再読し、タイトルと第1段落で示された質問に対する答えを考えることを促すことである。答えの根拠となる情報を特定することが奨励される。フルセンテンスで答えることで、この答えが要約の最初の文になり得る。つまり、この答えは、タスク (b) で学習者が作成するリストで拡張されることになる。</p> <p>もう一つの目的は、学習者同士のディスカッションを促すことである。答えは学習者やペアによって異なるかもしれない。それを踏まえて、何組かのペアにクラス全体の前で発表させ、クラス全体でディスカッションさせる。このクラス全体でのディスカッションの目的は、記憶や直感に頼るのではなく、本文を使用してクラス全体が納得できる答えを見つけることである。</p> <p>タスク1からタスク13をとおして、学習者は、目的に応じた読解、再読、ディスカッションを行い、メイン・アイデアや重要な情報を特定することに重点が置かれたタスクに取り組んできた。この一連のタスクは、学習者が理解を定着させ、本文を要約し、効果的な理解のためにRSを使用できるようになることを目的としている。</p>

表4 提案するRGのタスクが促すRS

RS	タスク番号																			使用回数	RSの3分類							
	1	2	3	4	5a	b	c	6a	b	7	8a	b	c	9a	b	10a	b	c	11		12a	b	13a	b	G	M	S	
rereading		✓		✓							✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓			✓	✓	13	✓			
paying attention to text structure				✓							✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓						8	✓			
identifying important information/main ideas					✓	✓		✓						✓						✓	✓			7	✓			
using discourse markers to see discourse relationships											✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓						7	✓			
using graphic organizers				✓				✓			✓	✓				✓				✓	✓			7			✓	
summarizing																✓							✓	✓	3	✓		
planning and forming goals for reading		✓	✓				✓																	3	✓			
discussing text content			✓																				✓	✓	3			✓
checking predictions		✓	✓																					2	✓			
predicting		✓	✓																					2	✓			
previewing		✓	✓																					2	✓			
identifying anaphoric cues																				✓				1	✓			
reading selectively according to goals									✓															1	✓			

GはGlobal RS, MはMonitoring RS, SはSupport RSをそれぞれ示す。

中段階では、GOを用いて重要な情報を読み取らせるとともに各段落の談話構造への気づきを促すタスクを多く配置した。この英文は単純な構造の段落と一文毎に談話構造の種類が異なる段落とから構成されている。学習者がGOを基に、英文を読み取り、それに書き込むことで、英文の内容と談話構造に対する理解が深まることを意図した。また、DMに注意を向けさせることを狙ったタスクもある。加えて、Stoller氏とGrabe氏のRGにはなかった代名詞が示す内容を読み取らせるタスクも含まれる。このタスクに答えることで、この英文の第4段落と第5段落には強いつながりがあることに気づかせる。さらに、メイン・アイデアを問うタスクの答えをペアで比較した後に、一名か二名のボランティアを募り、クラス全体の前で答えを発表する機会を与えることを奨励するタスクを設けた。ペア

とクラス全員での共有を通して、メイン・アイデアの確認を行い、クラス・メイトが使用するRSの意識を高める機会となり得る。

後段階では、本文全体のメイン・アイデアと本文のタイトルに対する答えに自身の言葉で答えるタスクを配置した。目的を持って、本文全体を再読させることも意図した。加えて、解答をペアとクラス全体でディスカッションさせる。このディスカッションの目的は、本文の記述に基づきクラス全体が納得できる答えを見つけるといった学び合い・教え合いと理解の仕方を学ぶ機会を提供することである。

リーディング前・中・後のタスクはStoller氏とGrabe氏のRGのタスクと同様に、すべてのタスクがRSを促すことを意図して作成された。表4に各タスクに取り組むことで使用するRSをまとめた。表4が示すように、こ

のRGは合計23のタスクから成り、タスクに取り組むことで、学習者は13種類のRSを合計59回使用する。表2のStoller氏とGrabe氏のRGのRSの使用回数と比べると、それを大きく上回ったが、この数の違いはタスク数の違いによるものである。タスクの種類とそれぞれのタスクの使用の割合については類似していることがわかる。学習者はこのRGに取り組むことで、多様なRSを多く経験することができる。

13種類のRSの内、Global RSが10、Monitoringが1、Supportが2で、総数がGlobal RSが36回、Monitorが13回、Supportが10回の合計59回であった。両氏の授業と同様に、学習者はGlobal RSを最も使用する。加えてプレビューが最初に使用するRSとなっている。また、最も多く使用するRSはrereadingで13回となる。続いて、paying attention to text structureが8回、identifying important information/main ideas, using discourse markers to see discourse relationships, using graphic organizersが7回である。さらに、リーディング中のRS使用が豊富になっていることがわかる。

6. まとめと今後の課題

第4章ではStoller氏とGrabe氏の授業を紹介し、第5章では検定教科書の英文を基に作成したRGによるリーディング指導を提案した。両氏の授業と提案した授業では、リーディング指導を、リーディング前、中、後に分け、熟達した読み手がそれぞれの段階で使用するRSを学び使用する機会や、ディスカッションを通してメイン・アイデアの理解を促進し、クラスメイトが使用するRSに対する意識を高める機会が豊富に設定されている。さらに、タスクに答えることで、GOとDMを活用し談話構造に対する知識を深ながら、メイン・アイデアの理解の仕方を学ぶことが

できる。また、明確な目的を与えて読ませ、再読させている。

筆者は、読者が本稿で示したRGを参考にし、それぞれの教育現場に適したRGを作成し、継続的なリーディング指導を授業で行うことを提案したい。両氏のRGと筆者が作成したRGには、単語や文法を学ぶためのタスクが含まれていないが、例えば、教科書本文の新出単語指導をRGによるリーディング指導の前に、文法指導については、後に行うことで、教科書本文のリーディング指導をRGを用いて行うことが可能になるであろう。また、多くの教科書には追加の英文教材が含まれている⁸⁾。そのような英文を用いてRGを作成し、通常の授業に加える形でRGに基づいたリーディング指導を継続的に行うこともできる。

RGを作成することは簡単ではない。筆者は何度も英文を読み返し、高校生にとって適切で、高校生が意欲的に取り組めるタスクを試行錯誤しながら作成した。Stoller氏とGrabe氏は、RGとそれに用いるRSを考える際の心構えとして、教師は、学習者が英文の理解力を高めるだけでなく、熟達した読み手が難解な文章を理解するために使うであろうRSを活用する機会を得られるようなRGを作成する必要があると述べる。そのために、使用するテキストを数え切れないほど読むことが求められ、教師は、対象となる学習者と熟達した戦略的読者の両方の目を通して、何度も文章を読むことによってのみ、効果的なRGを作成することができると説く⁹⁾。

筆者自身、英文をくり返し読み、RGを作る過程で、様々な気づきを得られた。例えば、

8) 『CROWN English Communication I New Edition』

は10課から成り全課にOptional Readingが含まれる。

9) 両氏とのパーソナル・コミュニケーションによる。

段落の構造は単純なものばかりではなく、複雑であるということだ。一つの段落が一つの段落構造をとる場合もあるが、文ごとに構造が変わる場合もある。また段落の構造に関連して、段落の談話構造を示すGOを書くときは、まずまっさらな紙に手書きでGOを幾つか書いてみて、学習者が見やすい図となるように改良すると良いことがわかった。何度か繰り返すうちに、コツがつかめ、徐々にではあるが短時間で作成できるようになった。

さらに、今回の英文に限った気づきもあった。例えば、ロボットがコンピュータと同一のもとして英文の途中から論が展開されていることやMIT研究者のAutor氏が「筆者」を意味する“author”という語と間違いやすいので、タスクの指示文を作成する際に注意が必要であることなどである。何度も英文を読み返し、学習者と熟達した戦略的な読み手の両方の目を通して、教材に向かうことの大切さを実感することができた。

最後に今後の課題を述べる。第一にRGによる継続的な指導を行うことで、学習者のリーディング力やRSの使用に対してどのような効果が見られるか調査したい。また、本稿では説明文に基づいたリーディング指導・RGを提案したが、例えば物語文など、異なるジャンルの英文を用いたリーディング指導・RGを作成したい。加えて、高等学校の検定教科書以外に中学校の検定教科書や大学生用のテキストの英文に基づいたリーディング指導・RGを提案したい。さらに語彙や文法の指導をRGによるリーディング指導といかに有機的に結びつけるかについても検討していきたい。

付記

本稿は、第53回中部地区英語教育学会富山大会の自由研究発表「Stoller博士とGrabe博

士のリーディング授業—リーディング・ガイドの紹介と学習者の学び—」（2024年6月23日）及び、全国英語教育学会第49回福岡研究大会の自由研究発表「Stoller博士とGrabe博士のリーディングガイドに基づいたリーディング指導の提案」（2024年8月25日）の内容を含む。

謝辞

Fredricka L. Stoller氏とWilliam Grabe氏には、筆者が提案したRGを作成する過程で、多くのご助言をいただきました。また、本稿を執筆中に生じた筆者の様々な疑問に、毎回丁寧なご回答をいただきました。この場を借りて深くお礼申し上げます。

引用文献

- Grabe, W., & Stoller, F. L. (2018). Reading Instruction and Assessment: Activities and Options. In Newton, J. M., Ferris, D. R., Goh, C. C. M., Grabe, W., Stoller, F. L., & Vandergrift, L. (Eds.), *Teaching English to Second Language Learners in Academic Contexts*. (pp. 48-71). Routledge.
- Grabe, W., & Stoller, F. L. (2020). *Teaching and researching reading* (3rd ed.). Routledge.
- Grabe, W., & Yamashita, J. (2022). *Reading in a Second Language: Moving from Theory to Practice*. (2nd ed.). Cambridge University Press.
- Jiang, X., & Grabe, W. (2007). Graphic Organizers in reading instruction: Research findings and issues. *Reading in a Foreign Language*, 19 (1), 34-55.
- Jiang, X., & Grabe, W. (2009). Building Reading Abilities with Graphic Organizers. In R. Cohen (Ed.), *Explorations in second language reading* (pp. 25-42). (TESOL Classroom Practice Series). TESOL.
- 霜崎 實 ほか14名 (2020). 『CROWN English Communication I, New Edition』(2016年3月17日 文部科学省検定済高等学校英語教科書) 三省堂.

付録：Lesson 9 Optional Reading

Are Robots Going to Take Our Jobs?

In factories, convenience stores and even sushi shops, robots are doing work that used to be done by humans. Are we going to lose our jobs to robots? Maybe not, says MIT scholar David Autor.

Autor argues that there are limits to what robots can do. Computers can do high level intellectual work quite easily, but it is difficult for them to do simple low-level tasks which humans do almost automatically. Autor says, “It is comparatively easy to make computers exhibit adult-level performance on intelligence tests or playing checkers, and difficult or impossible to give them the skills of a one-year-old when it comes to perception and mobility.”

Take, for example, the problem of teaching a computer to recognize a picture of a chair. There are an almost infinite number of shapes and sizes which the computer would have to learn. Both a toilet and a traffic cone might look like a chair to a computer. However, even a child would recognize that a traffic cone would not be a comfortable place to sit. The child intuitively understands the concept of function. The computer can easily be taught to identify shape, but it is very difficult to teach it to understand *function*. In short, computers simply lack “common sense.”

We humans can perform complex tasks without fully understanding all the details of the process, like tying our shoes or identifying a species of insect. Computers may never be able to develop these skills. There will always be opportunities for humans to work with computers to supply the common sense which even the most intelligent computers lack.

What does that mean for our jobs in the future? Computers will get better at doing the routine work that humans do now, but we will still be needed for jobs which require interpersonal interaction, flexibility, and problem solving.